

平成23年度 学校自己評価システムシート (県立川口工業高等学校 (定時制))

目指す学校像	地域に根ざした楽しく明るい学校 —ものづくりを担う若者の育成—
重点目標	1 授業内容や教材等を工夫し、基礎学力の充実 2 個々に応じた勤労意識の育成とキャリア教育の充実 3 規律ある態度の育成 4 地域に根ざした開かれた学校づくりの推進

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	2名
	生徒	0名
	事務局(教職員)	2名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年 度 評 価 (2 月 1 0 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成 次年度への課題と改善策
1	1 基礎学力が定着していない生徒が多く見受けられる。基礎基本の反復とともに、個に応じた学習指導が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着 個に応じた学習指導 	<ul style="list-style-type: none"> 授業内容や教材等を工夫するとともに、基礎基本を重視し、基礎学力の向上を図る。 学習支援員の効果的な活用やチームティーチングの実践により、わかる授業を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> 欠点保有者数を減らすことができたか。 理解できたことの喜びを感じ、生徒の授業への参加意欲が高まったか。 	<ul style="list-style-type: none"> B 震災など身近なテーマを教材にしたり、反復学習を用いたりするなど基礎学力の定着を図った。しかし、欠点科目数は130で、前年度比26増であった。(2学期) B T Tや学習支援員の活用により、個々の習熟度に応じた授業を展開した。わかる喜びを味わせた。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の更なる定着を目指して、板書やプリントに一層の工夫を加える。 授業力向上の校内研修会を開催する。 教師からの指導のみならず、生徒間の教え合い、学び合いを取り入れた授業を展開する。
2	1 明確な進路意識を有していない生徒が多く見られる。学校教育活動全般を通じたキャリア教育が課題である。	<ul style="list-style-type: none"> 夢をはぐくむ進路指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業後の進路に関する目的意識を育て、社会の一員として責任を果たせる人材を育成する。 就職支援アドバイザーの活用をはじめ、個別進路相談の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 就職希望者の目標実現に寄与できたか。 生徒の就労意識が高まったか。 	<ul style="list-style-type: none"> B 4年在籍数26名中、進路決定者は12名である。(46%) 担任をはじめ、就職支援アドバイザーが親身になって個別相談に当たり、就労意識を高め、進路実現に繋げた。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路未決定者を可能な限り0に導くよう、一層のキャリア教育を推進する。 引き続き、就職支援アドバイザーを活用し、就労意識の高揚を図る。
3	1 大きな問題行動は減少傾向であるが、規範意識に乏しい生徒が存在する。	<ul style="list-style-type: none"> 規律意識の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒との関わりを密にし、信頼関係を構築するとともに、教職員が一体となった生徒指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 自らの行動を律することのできる生徒が増えたか。 	<ul style="list-style-type: none"> B 1学期当初から校内外の巡回指導等を行い、生徒が安心して授業に取り組める学習環境を整備した。 教職員が一丸となって、生徒指導を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりの実態を掴み、生徒理解に努め、迅速で適切な生徒指導を展開する。 生徒の実態に即した指導内容の検討を要する。
4	1 保護者をはじめ、地域の方や中学校関係者に、更なる情報発信が課題である。	<ul style="list-style-type: none"> 開かれた学校づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 中学校訪問、ホームページを通じて、教育活動の情報発信を行う。 学校評価懇話会での意見を踏まえ、信頼される学校づくりを推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 適時性のある情報発信ができたか。 意見をもとに、改善が行えたか。 	<ul style="list-style-type: none"> B 月約3回のペースでホームページの更新を行うなど、適時性のある情報発信が行えた。また、定時制初となる学校評価懇話会を設立できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 懇話会の内容を充実させることが来年度の課題である。 中学校に対し、本校の魅力をさらにPRしていく。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成24年 2月29日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> 真面目に勉強している生徒がおとなしくしているだけでなく、大きな声で発言したり質問したりするような雰囲気が出てくるといいと思う。 授業力向上の研修会はぜひ実施してください。 たまたまかもしれないが、あるクラスで、プリントをやらせて、答えあわせをするだけの授業を見たが、生徒が興味関心を覚えるような授業展開をしてほしい。 	
<ul style="list-style-type: none"> 進路意識をさらに高めるために、例えば、卒業生などを招き、就職活動の実体験や、高校時代に学んでおけば良かったことなどを話してもらうことはできないですか。 不況で、働きたくても働けない現状がある。生徒がかわいそうに思う。 就職活動など、やらされている意識を無くし、自分のために行動する気持ちを生徒にもっと持ってほしい。 	
<ul style="list-style-type: none"> 先生方の苦労は頭が下がる思いである。 これからも、愛情をもって、厳しく指導してください。 生徒の規範意識は、家庭によるところが大であると思う。 4送会での活動を見ても、先生方と生徒との信頼関係はできていると感じた。 	
<ul style="list-style-type: none"> 学校公開をはじめ、PTA広報誌の発行など、昨年度より情報公開・情報発信ができていたので、ぜひ継続・発展させてほしい。 学校公開をしても、関わってくる保護者の数が少ない。先生方には遠慮された物言いではなく、もっと強制力を持たれてはどうか。 先生方に名札というのはいかがか。保護者が先生方の名前を覚えたいため。会社など顔写真一覧を掲示しているところもある。 	